

消防団長研修会をつくば市で開催

茨城消防



6・7月号

発行所
水戸市千波町1918番地
茨城県総合福祉会館内
財団法人 茨城県消防協会
編集発行人
消防協会長 大塚 光
印刷所
富士オフセット印刷株
(1部 15円)



消防団長研修会の風景

毎年恒例、当協会の重要行事である平成二十一年度消防団長研修会が茨城県との共催で、筑波山の中腹に立つ「つくばランドホテル」を会場に、六月二十三日(火)から二十四日(水)の日程で開催されました。

研修は、最初に「茨城県消防防災行政の概要について」として、県消防防災課の遠藤課長、同課の飛田課長補佐、県立消防学校の岩島校長から順次、消防防災行政の概要、救急搬送受入の実施基準、教育訓練計画等について説明がありました。

十九年度から概ね三年度程度で県内全市町村に結成しようとする当協会で決議し、今年が丁度三年目にあたることから「女性消防団の結成に向けて」と題して、まもなく発足を迎える当協会の大家会長の地元、つくば市消防団の具体的な取り組み状況をつくば市消防本部地域消防課の北嶋課長から、発表いただきました。

その後、休憩をはさんで、茨城県保健福祉部保健予防課の青山課長を講師にお招きして、今年大流行の恐れがある「新型(豚)インフルエンザについて」講演を受けました。まさに県内でも患者が発生しており、青山課長には大変お忙しい中にも関わらず、貴重なお話を聞かせていただきました。最後は「消

防互助年金及び火災共済制度について」を日本消防協会の柴垣事務局長に出席をいただき、本県の加入状況や加入促進等について説明を受けました。

研修後の情報交換会には、常に消防関係の行事は、万障繰り合わせて出席いただいている橋本知事にもご参加いただきました。

事務方も同席しての情報交換会は、消防団運営のあり方や女性消防団の結成促進、あるいは団員確保対策等について活発な情報交換が図られ、有意義な研修だったものと確信しました。

この大会は、火災予防思想の一層の普及と民間防火組織の結成促進を図るため、幼年消防クラブ、少年消防クラブ、婦人防火クラブと消防関係機関が一挙に会し、相互に交流を深める事を目的に毎年会場を別にして開催されます。

茨城県、茨城県幼年婦人防火委員会及び日立市など六団体の共催による茨城県幼年少年婦人防火大会が、平成二十一年七月三十日(水)に日立市の日立シビックセンターにおいて、来賓を始め大勢の参加者を得て盛大に開催されました。

表彰式終了後のアトラクションでは、地元のいしもち保育園と多賀さくら保育園の各幼年消防クラブによる和太鼓の演奏三曲「多賀さくら太鼓」「天地人」「いしもち太鼓」が披露され、その見事なパチパチと、お二人による「口笛の調べ」と題した演奏が披露され、その技術と深みのある演奏に大変感銘を受けました。

第二十四回茨城県幼年少年婦人防火大会日立市で開催



北嶋課長による意見発表



柴垣事務局長による説明



青山課長による講演

式典の風景

本大会の準備にあたられた地元消防本部や日立市などの関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

なお、受賞者は次のとおりです。

『優良民間防火組織』
水戸市立緑園保育所幼年消防クラブほか五団体
『優良民間防火組織クラブ指 導者』
浅野真智子(めぐみ保育園 ほか九名)
『優良民間防火組織』
茨城県消防協会会長表彰
『優良民間防火組織』
水戸市立緑園保育所幼年消防クラブほか八名
『優良民間防火組織』
前嶋幸子(前茨城県婦人防火クラブ連絡協議会 長)

10mから50mモリタの梯子車
モリタの技術と設備は20種類以上の消防防災、総ての車を造ります。

完全水冷ラジエータ式、強制空冷式シバウラ小型消防ポンプ
SFシリーズ、TFシリーズ独特の2本立で総ての機能を具えております。

消防・防災用品全般、火の見櫓撤去・移設、ホスポール建立

茨城県代理店
(有) 鈴 機
石岡市国府5-2-25
TEL.0299(22)3010 FAX.0299(22)5846

Panasonic

自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所

本 社 ☎310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号
TEL.029-224-4614(代表)
FAX.029-224-4613
千波営業所 ☎310-0851 水戸市千波町海道付2027番地
TEL.029-241-3636(代表)
FAX.029-244-0540
土浦営業所 ☎300-0061 土浦市並木1丁目2番20号
TEL.029-821-8498(代表)
FAX.029-822-6575

トーハツ 小型ポンプ

充実のVシリーズ

V75ESからV110Fまで
豊富な機種でお客様のご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式

茨城県代理店
トキワ産業株式会社
水戸市東原3-6-24
TEL.029(224)3324(代)
FAX.029(224)3360

茨城県消防救助 技術大会開催

日頃の消防救助訓練の成果を競う「第三十八回茨城県消防救助技術大会」が、六月二十五日(木)茨城県立消防学校において、開催された。

近年の都市構造はますます高層化・過密化の様相を呈し、さらに災害も大規模で複雑多岐にわたっており、人命に係る事故が相次いで発生し、救助活動も新しい専門知識と体力、そして高度な救助技術が求められています。

今回の大会は、新型インフルエンザの国内発生に伴い、感染の機会を減らす対策として関係者の参加を減らし、規模を縮小した選考会形式での実施となりましたが、それが、団体競技の三種目が「ロープアップリッジ救出」、「障害突破」、「引揚救助」の順に実施され、本番ながらの熱気と緊張感溢れる救助技術が披露されました。

隊員各位のこれまでのご努力とそれを支えてこられた関係者の皆様のご労苦に敬意を表しますとともに、今後ますますのご精進とご健闘を心から祈念いたします。

なお、本大会で優秀な成績を収めたチームは、関東大会や全国大会に出場し、立派な成績を収めました。県大会・関東大会・全国大会の成績は次の通りです。



全力で走る隊員 (障害突破競技)

- 【県消防救助技術大会】
《陸上の部》
- ◎ロープアップリッジ救出
 - 一位 常総広域A(新井実・中島正彦・染谷敬一・鈴木忍)
 - 二位 石岡市A(岡崎頼士・鈴木一将・菊地輝・野口純)
 - 三位 常陸太田市A(榎昌史・菊池仁康・磯野和久・根本拓磨)
 - 四位 小美玉市A(矢口昇・長谷川哲也・山口智志・遠藤隆史)
 - 五位 茨城西南C(間中真行・小島啓史・加藤威志・柴崎一)
 - 六位 かすみがうら市A(木村伸久・石神悟志・武田英明・藤井博之)

- ◎引揚救助
 - 一位 那珂市A(小高直人・會澤和久・石川悠太・平根将人・小澤卓也)
 - 二位 つくば市B(豊島法雄・櫻井慶信・飯島将司・高嶋泰裕・白井源宗)
 - 三位 石岡市A(大槻昌宏・高根富雄・高田健太郎・岡田正人・鈴木賢一)
 - 四位 鹿島地方A(深澤辰徳・金田圭吾・高木源史・今井友洋・玉造敏充)
 - 五位 日立市A(高根義仁・小林啓太郎・高橋芳治・鈴木政信・井上亮)
 - 六位 北茨城市A(齋藤隆一・菊地謙二郎・加藤彰・鈴木雅俊・小谷野貴明)

- ※一〜二位は関東大会出場
- 【第三十八回消防救助技術関東地区指導会】(七月二十三日・横浜市消防訓練センター)
- 《陸上の部》
- ◎ロープアップリッジ救出
 - 常陸太田市A(六位入賞)
 - 常総広域A
 - 石岡市A
 - ◎障害突破
 - 那珂市A(九位入賞)
 - 常総広域A(十二位入賞)
 - 日立市A
 - ◎引揚救助
 - 那珂市A(五位入賞)
 - つくば市B
 - ※那珂市Aは全国大会出場
 - 《水上の部》
 - ◎基本泳法
 - 水戸市(十九位入賞)
 - ◎溺者搬送
 - 那珂市(十四位入賞)

茨城県消防連会 山口会長就任



連会総会の風景

平成二十一年度の消防連会総会が、八月二十七日(木)から二十八日(金)にかけて、二十六名が出席して、ひたひたなか市の「ホテルニュー白亜紀」で開催されました。

その中で、任期途中ですが川井会長から辞意が表明され、協議の末に了承されました。

また、総会では会費収入が減少しているため、未納者対策として「正会員の年会費を一万円から五千円に改める」が、協議の末に承認されました。

新しい正副会長は次のとおりです。

会長 山口利雄(元玉里村消防団長)

副会長 生井正利(元水戸市消防本部消防長)

副会長 菊池遠平(元日立市消防団長)

※川井一朗前会長は顧問に就任

なお、連会会員の皆様には年会費(五千円)の納入をよろしく願っています。



【編集後記】

まだまだ残暑厳しいこの頃ですが、暦はすでに立秋を過ぎ、朝晩の涼しさが秋の気配を思わせます。

今年の秋は、新型インフルエンザの大流行が心配されます。手洗いやうがいをしっかり心掛けたいものです。(木)

消防団員幹部教育 第四十九期 指導員養成科終了



消火活動訓練

今年も、県立消防学校において県内各市町村から二十九名の参加を得て、消防団員幹部教育第四十九期指導員養成科が、六月十一日(十二日と七月九日)十日の延べ四日間の日程で行われました。

消防団員の教育訓練を担当する幹部課程ということで、「幹部の心得」をはじめ、「消防活動」、「消防訓練」、「応急手当」、「救助活動」等、訓練を重点とした研修を実施し、幹部団員としての知識や技術の習得に努めました。

今後、地域に戻っても新人団員をはじめ若い団員に対する教育訓練にご活躍されますようご期待申し上げます。